

質問を変えると授業が変わる?!!

学生の学修を促す
質問の作り方 ?

川野 卓二
徳島大学 高等教育研究センター
令和元年8月29日 SPODフォーラム (@愛媛大学)

2

自己紹介

川野 卓二(徳島大学 高等教育研究センター 教育改革推進部門)

1982.3 大阪教育大学大学院教育心理学研究科 M.Ed.
1988.8 ユタ大学大学院教育心理学研究科 Ph.D.
1988.9 ケースウェスタンリザーブ大学研究員
1989.5 専門学校 穴吹カレッジ 講師
1991.8 ユタ大学大学院教育心理学研究科 M.Stat.
1997.4 - 徳島大学 (現職)

仕事

- 徳島大学 全学FD推進プログラムの企画・運営・講師
- 授業担当: 教養教育科目:「教養としての統計」
「行動統計学入門」(eラーニング科目)
専門:総合科学部「心身行動研究法」および「行動統計学」
- SPOD-FD研修講師「学生の学修を促す質問の作り方」
- Fink(2003)『学習経験をつくる大学授業法』(玉川大学出版部: 分担翻訳)



どうすれば
授業が
変わるのか?

学生の注意を引き、好奇心を
起こさせ、重要な点を強調し、
そして能動的な学習を促すた
めの良い方法は何か？

「質問(Questions)」
デイビス「授業の道具箱」
第10章 質問の仕方(1993)

9

このWSの到達目標は？

- 授業で使用する**質問**が持つ機能について説明できる
- 自分の授業で用いている**質問の型**を分類できる
- 使っている質問を、学生の**学び**をより深める**質問に変える**ことができる
- 使用する**質問の型**を授業の展開に合わせて適宜**変える**ことができる

10

「質問」に関する質問は？

- **なぜ**「質問」をするのか？
- 「質問」とは**何か**？
- 「質問」と「問題」は異なるのか？
- 「質問」には**どのような形**があるか？
- 「質問」には**どのような役割**があるか？
- **いつ・どのような場面**で「質問」すればいいのか？
- 「質問」には**どのような力**があるか？
- 「質問」を**どのように作成**すればいいのか？
- 「質問」に**どのように応(答)**えればいいのか？
- 「質問」への答に**どのように**応えればいいのか？
- 「質問」を**変えるとは**、何をすることなのか？

17

【第1問】話し合いをしながら授業を進めるには何の技術が必要になるか？

- 話す技術
 - 何を、どのように話せばいいのか？
- 聞く技術
 - どのように聞けば、学びを深める助けができるのか？
- 質問する技術
 - どのような質問をすればいいのか？
- 応える and/or 応えない 技術
 - どのように応えるのか？

20

教室内的教師の役割

- 話す:
- 聴く(質問する): 35～50%(80%という報告もある): **60%事実に関する質問; 20%考える必要がある質問; 20%教室管理に関わる質問**
- その他:

21

質問 (Question) とは？

- 【ODE】 1. a sentence worded or expressed so as to elicit information (情報を引き出す目的で構成 (表現) された文)
 - 2. a matter requiring resolution or discussion (議論や解決が必要な事柄)

35

質問と問題はどのように違うのか？

- 質 問 (Question)
 - Answer (回答) が求められている
 - 原則的に、Answerは一つだけ
- 問 題 (Problem)
 - Solution (解答) が求められている
 - 複数のSolutionが存在、もしくは、一つSolutionに至る過程が複数存在する(?)

36

答 (Answer) とは？

1. a. 質問 (question) に対する応答または返信 (reply).
 - b. 正しい返答 (reply).
2. a. 問題 (problem) に対する解 (solution)
 - b. 正しい解 (solution).

37

質問が持つ力 (1)

- ① 質問は答えを引き出す力がある
質問されると、人は自分のなかに答えを探そうとする傾向がある
- ② 質問は思考力を鍛える力がある
質問する側もされる側にも思考への刺激がある。また想定外の質問されると思考の焦点が変わる
- ③ 質問することで必要な情報を手に入れる力がある
質問を具体化したり、更に掘り下げたりすることで、必要な情報が増えていく
- ④ 質問は場 (会話) をコントロールする力がある
質問する側に自分のほしいものを聞き出せる、というアドバンテージがある
- ⑤ 質問は心を開く力がある
質問から相手が自分に興味や関心をもっていると感じると、自分のことを語りたくなる

41

質問が持つ力(2)

⑥質問は聞き上手につながる力がある

的確な相手にフィットする質問する力を磨くことで、当をえた答えが得られるようになる

⑦質問はその気にさせる力がある

何をしたいかわからないとき、質問に答えていく中で、やるべきことが見えてくることもある

⑧質問は関係性を強める力がある

おぞなりの会話ではなく、発言を深めていく質問で、お互いの信頼が高まる

⑨質問は知を深める力がある

ソクラテスの産婆術ではないが、投掛けられた質問によって間違いに気づき、知が深められる

⑩質問は可能性を開く力がある

問われる中で、自分のリソースに気づき、潜在力に目覚め、できる自信を深めることができる

<http://www.d1.dion.ne.jp/~ppnet/prod06432.htm>

42

質問を整理する視点

- 質問のタイミング
- 開いた質問 or 閉じた質問
- 誰に対する質問か
- その質問の目的は
- その質問の深さは
- どのくらいの前準備を
- どのように応答するのか
- いつフィードバックを
- その後の展開は
- 総時間数は
- 教育目標との関連は
- 正しい答は何を表すのか
- 改善(修正)の方向は

44

質問のタイミング

- その質問は、「いつ」しました(します)か？
- 第1回目の授業で
- 当該授業の前の週に
- 当該授業の開始時に
- その内容を話し始めた時に
- その内容を進めながら
- その内容が終わった時に
- その日の授業の終わりに
- テストの時に

45

質問を捉える視点

- 知識、理解、応用、分析、統合、評価
Bloom, BS (1956)「Taxonomy of Educational Objectives」
- 記憶、翻訳、解釈、応用、分析、統合、評価
Sanders, NM (1966)「Classroom Questions」
- それ自体、個人的事情、外(部)的実情
Christenbury, L. & Kelly, P. (1983)「Questioning」
- 低い(浅い?) vs. 高い(深い?) 水準 with
収束的(閉じた?) vs. 拡散的(開いた?) 次元
Wilén, WW (1991)「Questioning Skills, for Teachers」

46

なぜ質問をしますか？(1)

- 情報を得るため
- 会話をコントロールするため
- 相手への関心を示すため
- 論点を明確にするため
- 相手の状況をよりよく理解するため
- 知識を試すため
- より深く考えさせるため
- 集団状況で方向づけを行うため

47

なぜ質問をしますか？(2)

- 学生を授業に積極的に関わらせるため
- 関心や動機づけを高めるため
- 学生の準備状況を確認するため
- 課題の完遂状況を確認するため
- 批判的思考記述を高めるため
- これまでの学びを振り返るため
- 洞察力を育てるため
- 目的達成状況を評価するため
- 個人学習を刺激するため

48

質問の種類と役割

- **知識に関連**:「なに・・・ですか」「・・・は正しいですか」既に知っている、もしくは混乱していることを再確認。現状をより明確に
- **考え方、展望に関連**:「どう思いますか？」会話のスターターとして、意見に基盤を置き、創造的な反応を招く
- **行動に関連**:「どのように・・・するか」将来に焦点を当て、予測される行動。他より直接的
- **評価に関連**:「なぜ・・・」で始まることが多い。判断を伴い、他の質問より内省的

49

質問の分類(役割)

- **状況確認**:チェックリストに従って状況確認
- **論理・因果整合性**:事実関係、理由などを明確に
- **矛盾表出**:矛盾を突き、論理破綻を起こさせる
- **感情想起**:そのときの状況と感情を思い出させる
- **意欲創出**:気持ちをポジティブな方へ向かわせる
- **発想展開**:類似、比喩、逆など別視点への展開
- **本質直視**:つまるところ本質は何かを問う

50

Bloomの教育目標分類(認知的領域)

- **知識**: (改訂版では、**記憶する**) 情報や概念を想起する
- **理解**: 伝えられたことがわかり、素材や観念を利用できる
- **応用**: 情報や概念を特定の具体的な状況で使う
- **分析**: 情報や概念を各部分に分解し、相互の関係を明らかにする
- **統合**: (改訂版では、**創造する**) 様々な概念を組合せて新たなものを形作る
- **評価**: (改訂版では、創造の前に位置づけ) 素材や方法の価値を目的に照らして判断する

53

Bloomの視点に関わる動詞(1)

- **<知識>** 暗唱する 思い出す 関連づける 記憶する 繰り返す 再生する 定義する 名づける 並べる 認証する 配列する 表にする 複写する ラベルを貼る
- **<理解>** 言い直す 位置確認する 概説する 確認する 記述する 議論する 指摘する 説明する 選択する 認証する 表現する 分類する 報告する 翻訳する
- **<応用>** 演技する 応用する 解決する 解釈する 概略を説明する 実践する 使用する 選択する 操作する 予定をたてる 利用する 例証する 例を作る 論証する

54

Bloomの視点に関わる動詞(2)

- **<分析>** 区別する 計算する 検査する 検証する 識別する 実験する 質問する 対照する 認識・評価する 比較する 批評する 分析する 見分ける 類別する
- **<統合>** 集める 管理する 組み立てる 計画する 構成する 作成する 準備する 設計する 設立する 創造する 組織する 提案する 統合する 配列する まとめる 予測する
- **<評価>** 異議を唱える 採点する 査定する 選択する 選択する 認識・評価する 判断する 評価する 評定する 弁護する 見極める 立証する 論じ合う 論じる

55

質問の分類(段階)

Bloom's Taxonomy (改訂版)	Sanders's Taxonomy
• 評価: Evaluation - justify judgment about complex ideas (Evaluating ↓)	• 評価: Evaluation
• 統合: Synthesis – link ideas to create a new concept (Creating ↑)	• 統合: Synthesis
• 分析: Analysis – identify components of a complex idea (Analyzing)	• 分析: Analysis
• 応用: Application – use ideas in a new context (Applying)	• 応用: Application
• 理解: Comprehension – understand or explain ideas (Understanding)	• 解釈: Interpretation
	• 翻訳: Translation (Understanding)
• 知識: Knowledge – recall ideas (Remembering)	• 記憶: Memory

56

質問の分類(ブルーム,1956)

- **知識**(定義、原則、公式など以前に学習した資料を思い出す):「連合統治を定義してください!」「ピアジェの発達段階は何ですか?」
- **理解**(記憶された資料の意味の理解、通常は例を挙げたり引用したりすることで示される):「細胞分裂のプロセスを説明してください。」「いくつかの例を挙げてください。」
- **応用**(問題を解決し、質問に答え、タスクを実行するために新しいコンテキストで情報を使用する):「価格弾力性の概念はカラスムギの価格をどのように説明しますか?」「サンブルの小ささを考えて、これらのデータをどのように分析しますか?」
- **分析**(概念をその部分に分解し、それらの相互関係を説明し、関連する材料と無関係の材料を区別する):「ガソリンの価格に影響する要因は何か?」「シェルビー・スティールが積極的な差別撤廃に関する主張を展開するために使用した主要な論点を指摘する。」
- **統合**(部分をまとめて新しい全体を形成し、創造性または独創性を必要とする問題を解決する):「教職員のその後のキャリアの進歩に対して優秀教員賞を受賞したことの効果を示す実験をどのように設計しますか?」「認知科学の新しい研究を踏まえて、ブルームの分類をどのように再編成しますか?」
- **評価**(一連の基準を使用して、何かの価値についての合理的な判断に到達する):「提案された増税パッケージはどの程度予算不足を解消しますか?」「コカインが合法化された場合、公衆衛生サービスにどのような影響がありますか?」

70

質問を「段階的」に使いましょう

- レッスン内で**学習の流れ**を維持する
- すべて、グループ、または特定の学生を**学習に関与**させる
- 前のレッスンで学んだことを評価し、存在する**知識を確認**する
- 学習したことが理解され、**使用できることを確認**およびテストする
- レッスンへの学生の**参加を改善**する
- 学生の**記憶と理解度**をテストする
- 部分的に形成された**アイデアを共有**することで、推論を明確にし、より多くの学生が参加するように学生の**見解や意見**を求める
- 学生に意見や見解を**共有する機会**を提供します-仲間からの回答を求める
- **協働学習の感覚**を作成し、「講義」の感覚を弱める
- 特定の質問を特定の学生に向けることによって**差別化**する
- 思考のレベルに挑戦し、場合によっては**高次の思考へ**の変化を目立たせる
- **共同思考**、交渉力、チャレンジを奨励し、学習を**アクティブ**にする
- **焦点を絞った個人的および共同的思考**を促進し問題解決への意識を高める
- 例を使用して、学生の反応に基づいて高次思考の**モデルを示す**
- **推測、仮説設定、アイデア/意見形成**を促進する
- **創造的思考を奨励し、アイデアと想像力/革新的な思考を生み出す**

72

開いた質問をする12の目的

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------|
| 1. 学習状況を 評価 する | 7. 学生同士で お互い に回答させる |
| 2. あいまいなコメントを 明瞭にする | 8. 思考過程を 詳しく調べ せる |
| 3. 態度、価値、感情 (適切であれば)を探るように促す | 9. 考えられる 結果を予見 させる |
| 4. 他の視点から 考えるように促す | 10. 情報を 結合し、体系化 させる |
| 5. 考えたことをより 洗練 する | 11. 原理、公式を 応用 させる |
| 6. 自身の 主張や解釈 をサポートさせる | 12. 概念を 例をあげて 説明させる |

76

質問の仕方

- | 準備編 | 本番編(どの質問をするか?) |
|---|---|
| • なぜ 質問 するのか、その理由(目的)をはっきりしているか? | • 閉じた質問/開いた質問 |
| • 相手は、その質問をするのに最適か? | • 5W1H(3H?) <ul style="list-style-type: none">- 「Why」に関しては、推奨する意見と、できるだけ避ける方がよいとする意見に分かれている(??) |
| • その質問に適したタイミングはいつか? | |
| • 質問は、最適か、他にもっといい質問はないか? | |

78

悪い質問 vs. 良い質問の特徴

- 悪い質問

 - 曖昧である
 - 複雑である
 - 無礼で非難的である
 - 知ったかぶりである
 - 利己的である
 - 受け手への配慮がない
- 良い質問

 - **範囲が限られ**、はっきりしている(簡潔に答えることができる)
 - **ディベート**することができる(もしくは、されてきた)
 - 一次資料や二次資料を**調べて**応えることができる(ウェブ資料だけで応えられるものは避ける)
 - **重要な**事柄が解に含まれている

94

よい質問が求めているもの

- 原因 (or 原因の順位)
- 効果/影響 (ことによっては、順序づける)
- 前後関係、文脈上の意味付けを尋ねる
- 比較や対比
- 経時変化; 経時的な連続性
- 相互作用、相互の影響
- より大きな視点からの例証

95

質問の種類

- **探索的質問**は、事実や基本的な知識について詳しく調べる。「がんになりやすい人格に関する理論を裏付ける研究証拠は何ですか？」
- **チャレンジ質問**では、仮定、結論、および解釈を検証する。「この実験の結果を他にどのように説明できるでしょうか？」
- **関係の質問**は、テーマ、アイデア、または重要な問題点の比較を要求する。「最高裁判所は、ブラウン対教育委員会の判決を下す際に、どのような前提を捨てましたか？」
- **診断的質問**は、動機または原因を調査する:「なぜジョーは新しい身分を引き受けたのですか？」
- **アクションに関する質問**は、結論またはアクションを必要とする。「カリフォルニアホールでの座り込みに対応するために、学長は何をすべきですか？」

96

質問の分類1 (Questions That ..)

- 引きつける質問: **Hook**

 - 新しい話題に**興味を起こさせる**ために尋ねる
 - **好奇心, 質問, 議論を生じさせる**可能性がある
 - しばしば人を引きつける “子ども言葉” で表現される
 - 一度か二度尋ねるだけ、しかし、時間をおいて尋ねない
- その気にさせる質問: **Lead**

 - **応えてもらう**ために尋ねる
 - “**正しい**”答が**存在**する
 - 回想や情報検索を奨励する
 - 一度だけ尋ねられる (もしくは正解が出るまで)
 - 裏づけを必要としない (もしくは最小限の裏づけのみ必要とする)

97

質問の分類2 (Questions That ..)

- 導く質問: Guide**
 - トピックの**探求を奨励**し導くために尋ねる
 - 必要な知識とスキルに心を向ける(ただし必ずしも1つの答えに向かうわけではない)
 - 時間の経過とともに尋ねられることがある(例: ユニット全体)。
 - 普通, なんらかの**説明や裏づけを必要**とする
- 重要な質問: Essential Questions**
 - 進行中の**思考と探究を刺激**するために尋ねる
 - さらに質問が増える
 - 話し合いと議論を活気づける**
 - ユニット全体(そしておそらく1年中)に渡って質問し、何度も質問される
 - 理由や裏づけを要求する
 - 「答え」は理解が深まるにつれて変わる

98

重要, 不可欠, 本質的な質問の特徴 good essential questions

- 決まった答がない**: つまり、通常、単一の最終的な正しい答がない
- 思考を刺激し、知的に魅力的で、しばしば議論や討論を引き起こす
- 分析、推論、評価、予測などの**高次の考え方を要求**する。想起だけでは効果的に答えることができない。
- 分野内(そして時には分野を越えて)の重要で転移可能なアイデアに注意を向ける
- 追加の質問を投げかけ、さらなる問いかけを促す
- 単なる答えではなく、**証拠や理由を必要**とする
- 時間とともに繰り返される。つまり、この質問は何度も**何度も繰り返す**ことができ、またそうすべきである

McTighe, J. & Wiggins, G. (2013)

99

教室で使う質問の類型

- 復習: 知識や情報を思い出し**
- 用語 • 手順 • 内容 • 出来事と文脈
- 手続き: クラス内での作業を指示する**
- 手順と割り当てを確認する • 明確化 • 注意、同意の確認。
 - 課題の完了 • 組織および管理関連
- 生産的: トピックを探る**
- 教師が答えを知らない本物の質問や疑問。 • トピックのについてさらに詳しく調査を行うことになる本質的な質問
- 構成的: 新しい理解の構築**
- 拡張および解釈 • 連結と接続 • ビッグアイデア、中心概念、または目的の方向付けと集中 • 評価
- 促進: 学習者自身の思考と理解を促進する**
- 詳細、理由、証拠、根拠の要求 • さまざまな視点を聞くためにクラス内でディスカッションを促す • 明確化と発見

100

質問の類型

- 原因と結果の質問**: アイデア、行動、または出来事間の因果関係を求める: 「政府が小麦の農場補助金を止めた場合、パンの価格はどうなりますか？」
- 拡張機能の質問**: 議論を拡大発展する。「このコメントは、以前に言ったこととどのように関連していますか？」
- 仮説的な質問**: 事実や重要な点に変化を加える。「グレッグは貧乏ではなく金持ちだったとしましょう。結果は同じだったでしょうか？」
- 優先度を問う質問**: 最も重要な点を特定しようとする。「私たちが話したことすべてから、アメリカの競争力の低下の最も重要な原因は何ですか？」
- 要約質問**: 「今日のクラスからどのようなテーマや教訓が浮上しましたか？」という統合を引き出す。

(Jacobson, 1981; Rosmarin, 1987)

101

効果的な質問法

- 一度に1つの質問をする
- はい/いいえの質問を避ける
- 正しい答えがひとつではない質問を投げかける
- 焦点を合わせた質問をする
- 誘導的な質問を避ける
- 質問した後、静かに答えを待つ
- 正解に関するコンセンサスを得る
- 学生が理解を示すことが必要となる質問をする
- 学生と学生の相互作用を促すための質問を構成する
- 控えめなまたは嫌がる学生に話させる
- 質問を使用して、ディスカッションのテンポと方向を変える
- 厳密に調べる戦略を使用する
- 部屋内を移動して、ディスカッションに学生を巻き込む

<https://teachingcommons.lakeheadu.ca/tactics-effective-questioning>

102

(学生は)教員はなぜ質問をしないのか？

学生側の理由？

- 教えられたことをすべて理解したから
- どこから質問すればいいかわからないから
- 質問することで自分の無知が露呈されるから
- 質問への対応で授業の進行が遅れるから

教員側の理由？

- 学生はすべて理解できていると思うから
- 何を質問すればいいかわからないから
- 自分にも答えが準備できていないことが露呈されるから
- 質問への対応で予定していた範囲をカバーできないから

<http://www.math.utah.edu/~pa/math/a22.html>

109

質問への応え方

- 真摯に答える
- 嘘を応える
- 部分的に応える
- 的外れ
- はぐらかす
- 歪める
- 立ち往生する
- 拒否する

112

質問に効果的に応える10の術

- 応える前に、質問を正しく理解すること
- 質問を最後まで注意深く聴くこと
- すぐに応えずに、一息いれてよく考えること
- 質問に答え終えたら、そこで終わる
- ゆったりとした気分で、自信をもって話すこと
- 質問の持つ一般的な特徴に習熟すること
- 全ての質問に対する答えを知ってはいないこと
- いつも質問に対して質問で応えることはしないこと
- その領域の専門家であれば、そう振る舞うこと
- 質問を尋ねている人を判断することは避けること

<https://ezinearticles.com/?10-Techniques-For-Answering-Questions-Effectively&id=4605143>

113

どう応えればいいのか分からなくなったときに使える質問は？

- なぜそう思うのですか？
- このクラスで話してきたことと、今あなたが言っていることは、どのように関連していますか？
- Xさん、Yさんが話していることをどう思いますか？
- あなたが話していることの例として他にありませんか？
- もし、それが答だとしたら、質問は何だったのでしょうか？
- このことが真実だとあなたを納得させるものは何ですか？
- あなたがこのことを考えついたのは何からか説明できますか？
- このことに関して、あなたの意見を変えさせるには何が必要ですか？

<http://scriptoriumdaily.com/whats-a-good-question/> 114

良い質問を作るための方法

- 十分な時間をかける
- 連続し、関連した質問をする
- 否定的な語句を避けて、肯定的な質問を作る
- 意見を聞くようにする
- 自分自身に対しても質問する
- 注意深く聴く
- すぐに答えが返ってくる訳ではないので、忍耐強く聴く

118

質問を改善するために どのような方法(視点)があるか？

- 目的を変えてみる
- レベルを深めてみる
- 視点を変えてみる
- 使用する質問の順番を変えてみる
- 質問者、質問の対象者を入れ替えてみる
- 他の学生の答えも聞きたいと思える質問になっているか

119

聞いたことはありませんか？

- 「教えなければならないことが多すぎて、授業ではすべてをカバーできない。」

(安心してください)

Bruner(1960)は、「ある領域の知識に関して、そのより広範な主要な構造のコンテキストを明確にせずに特定のトピックやスキルを教えることは**不経済**です。」と述べている。

[不経済である理由] 1・すべてをカバーできたとしても、そのほとんどが忘れられてしまう。

2・知的興奮はあまり得られず、誤解していることを理解していないことが多い。

3・学んだことを後々の生活で遭遇することに一般化することは非常に難しい。

127

「知る」ことと「理解する」ことの比較

- | | |
|--------------------|--------------------------------|
| • さまざまな事実 | • さまざまな事実の意味 |
| • 一貫した事実の集合体 | • それらの事実に対して一貫性と意味を提供する「理論」 |
| • 検証可能な主張 | • 誤りのある、進行中の理論 |
| • 「正」or「誤」 | • 洗練性または程度の問題 |
| • 私は何かが正しいことを知っている | • なぜ、何がそれを事実としたか理解している |
| • 自分が知っている手がかりで答える | • いつ知っていることを使うべきか、いつ使わないかを判断する |

129

本当に理解したら・・・どうなる？

Six facets of Understanding

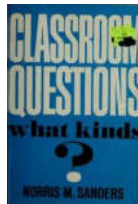
- 説明できる(explain): 現象、事実、およびデータについて、十分に裏付けがある、筋が通った説明を行う。
- 解釈できる(interpret): 意味のあるストーリーを伝える; 適切な言い換えができる; アイデアやイベントについて、歴史的または個人的な側面を明らかにする。画像、逸話、類推、モデルを介して個人的に理解しやすいものにする。
- 応用できる(apply): 多様な文脈で私たちが知っていることを効果的に使い、応用する。
- 観点を持つ(perspective): 批判的な目と耳を通して様々な視点を持ち、見聞きし、全体像を見ることができる。
- 共感できる(empathize): 他の人が奇妙、異質、または信じがたいと思うものにも価値を見いだす。自分自身の以前の直接的な経験に基づいて敏感に理解する。
- 自己知識を持つ(self-knowledge): 私達自身の理解を形作ったり、妨げたりする個人的な様式、偏見、投射および心の習慣を知覚する; 私たちが理解していないことと、なぜ理解がそれほど難しいのかに気づいている。

Wiggins, G. & McTighe, J. (1998)

130

主な参考文献

- Bruner, J.S. (1960) [The Process of Education](#) (Harvard)
- バーバラ・グロス・デイビス(1993) 10章 質問の仕方「授業の道具箱」(東海大学出版)
- Jacobson, R.T. (1981) Asking Questions is the Kew Skill Needed for Discussion Teaching. [Chronicle of Higher Education](#).
- McTighe, J. & Wiggins, G. (2013) [Essential Questions](#) (ASCD)
- 中井 俊樹(2015) 8章 発問で思考を刺激する 「シリーズ 大学の教授法3 アクティブラーニング」(玉川大学出版)
- Rosemarin, A. (1987) The Art of Leading a Discussion. (Harvard Business School)
- Sanders, N.M. (1966) [Classroom Questions: What Kinds?](#) (Harper & Row)
- Wiggins, G. & McTighe, J. (1998) [Understanding by Design](#) (ASCD)
- Wilen, W.W. (1991) [Questioning Skills for Teachers](#) (3rd Ed.) (NEA)



148

問い合わせ先

- 氏名: 川野 卓二
- 所属: 徳島大学 高等教育研究センター
- 住所: 徳島市新蔵町2-24
- Tel.: 088-656-7282
- E-mail: kawano@tokushima-u.ac.jp
kawanotakuji@gmail.com

150